



開催主旨

ICF（国際生活機能分類）は、2001年5月にWHO総会で採択されて以来、普及を促進するための研究開発が行われてきました。

2006年には、WHO-FIC（国際分類ファミリー）ネットワーク年次会合チュニス会議において、ICFを検討するFDRG（生活機能分類グループ）が設置されました。これを受けて、WHOの専門家会議において普及啓発、教育など活発な議論がなされており、目下、世界中の関係者から注目を集めています。

我が国においても普及の可能性、利用に於ける課題や問題点を明らかにするため、介護、リハビリテーション、医療連携等における具体的な研究や、活用事例の報告が行われているところです。

今回、こうした動向をふまえ、ICF（国際生活機能分類）のさらなる活用の促進に向けて、シンポジウムを開催することとしました。

本シンポジウムを契機に、活用事例の報告発表等を通じ、ICFに関する異職種間の情報交換が活発化し、連携が促進され、共通言語としてのICFの教育・普及が飛躍的に発展することを期しております。

皆様の積極的なご参加、ご協力を主催関係者一同、心よりお願い申し上げます。

開催概要

- 開催日時：平成22年1月24日（日） 12:00開場 13:00開始
- 会場：明治大学リバティータワー1階「リバティールーム」
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL 03-3296-4545
JR中央線・総武線・東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅下車徒歩3分
東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅下車徒歩5分
都営地下鉄三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線／神保町駅下車徒歩5分
- 費用：参加無料
- 主催：厚生労働省
- 協賛：財団法人厚生統計協会
- 協力：日本保健医療福祉連携教育学会 ソーシャルケアサービス従事者研究協議会
一般社団法人日本介護支援専門員協会 社団法人日本社会福祉士会
社団法人日本医療社会事業協会 社団法人日本精神保健福祉士協会
日本ソーシャルワーカー協会



プログラム

司会進行 ● 瀧村 佳代 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課 疾病傷害死因分類調査室長

12:00 開 場

13:00～13:10 開会挨拶
 高原 正之 厚生労働省大臣官房統計情報部長
 世界保健機関（WHO）からのビデオレター
 ベデルハン・ウースタン 世界保健機関（WHO）分類・ターミノロジー・標準 コーディネーター

13:10～13:35 新予防給付におけるアセスメント・ケアプラン作成の考え方
 木村 隆次 一般社団法人 日本介護支援専門員協会会長

13:35～14:00 退院支援における ICF 評価の試み
 藤田 伸輔 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部准教授

14:00～14:25 精神障害領域における ICF の活用に向けて
 安西 信雄 国立精神・神経センター病院副院長

14:25～14:50 ICF の活用「生きることの全体像」についての「共通言語」として
 大川 弥生 国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部長

14:50～15:10 休 憩

15:10～16:20 パネルディスカッション
 座 長： 大橋 謙策 日本社会事業大学学長 社会保障審議会統計分科会 生活機能分類専門委員会委員長
 パネリスト： 講演者 4 名
 (指定討論者) 真柄 彰 新潟医療福祉大学医療技術学部教授
 島野 光正 郡山市医療介護病院保健福祉等事業推進室長

16:20～16:50 質疑応答

16:50 閉会挨拶
 小野 暁史 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課長



講演者・パネリストプロフィール



木村 隆次（きむら・りゅうじ） 一般社団法人日本介護支援専門員協会会長

薬剤師・介護支援専門員・介護支援専門員指導者一期生。

城西大学薬学部卒業後、杏林薬品株式会社（現キョーリン製薬株式会社）入社。その後ハロー薬局、ハロー介護保険相談室開設。社団法人日本薬剤師会常務理事、青森県薬剤師会副会長、青森県介護支援専門員協会副会長、全国介護支援専門員連絡協議会会長、一般社団法人日本介護支援専門員協会会長。社会保障審議会の介護給付費分科会及び介護保険部会の臨時委員、統計分科会生活機能分類専門委員会専門委員を歴任。財団法人日本訪問看護振興財団評議員、社団法人シルバーサービス振興会理事、財団法人社会福祉振興・試験センター評議員も務める。



藤田 伸輔（ふじた・しんすけ） 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部准教授

昭和 59 年神戸大学医学部卒業

平成 4 年兵庫医科大学大学院外科学第 2 修了

平成 4 年兵庫医科大学外科学第 2 助手

平成 17 年千葉大学医学部附属病院地域医療連携部准教授



安西 信雄（あんざい・のぶお） 国立精神・神経センター病院副院長

昭和 48 年東京大学医学部を卒業後、精神科医師として統合失調症やうつ病などを持つ患者さんたちの治療とリハビリテーション・社会参加支援に関わる。東大病院精神科デイホスピタル（DH）で社会生活技能訓練（SST）のわが国への導入に参加。その後、都立松沢病院、精神保健研究所を経て、現職。SST 普及協会事務局長、社会精神医学会理事、精神障害者リハビリテーション学会常任理事など。



大川 弥生（おおかわ・やよい） 国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部長

医師、医学博士。1982 年より東京大学医学部にてリハビリテーション（リハ）医学を研修。以来、生活機能・障害構造論とその臨床実践応用、特に生活機能向上プログラム・システムづくりの研究に携わる。1997 年より現職。ICF には前身の ICIDH（国際障害分類）のフィールドトライアルから関与し、改定作業に携わり、採択後は大規模実態調査を実施。現在障害児・者についての大規模生活機能調査を障害当事者と協力して実施中。厚生労働省高齢者リハ研究会委員、老人保健事業見直し・介護保険法改正（特に介護予防）に関する各種委員会委員、総合技術会議社会還元加速プロジェクトの TF 委員等をつとめる。